

ニュースリリース 関係者各位

2012年9月11日

一般社団法人日本電子書籍出版社協会

日本電子書籍出版社協会（略称：電書協）

「電書協 EPUB 3 制作ガイド ver.1.0」を公開

電子書籍における国際的な電子書籍フォーマットである EPUB は、すでに日本でも実用化に向けてさまざまな取り組みが進められ、有力な電子書籍フォーマットのひとつになりつつあります。しかし一方で、ビューワーごとに表示のされ方が異なり、また、EPUB 3 を制作する際の方法が複数あるため、いまだ出版社が積極的な制作に取り組みづらい状況にあります。また、出版社の EPUB 3 に関する意向が統一されていないことから、ビューワーや読書端末の迅速な開発も妨げられているとも考えられます。

当協会は EPUB 3 制作の方向性を示すことでこれらの問題を解消するため、電書協加盟社に向けて、一般書の EPUB 3 を制作する際のガイドを作成いたしました。

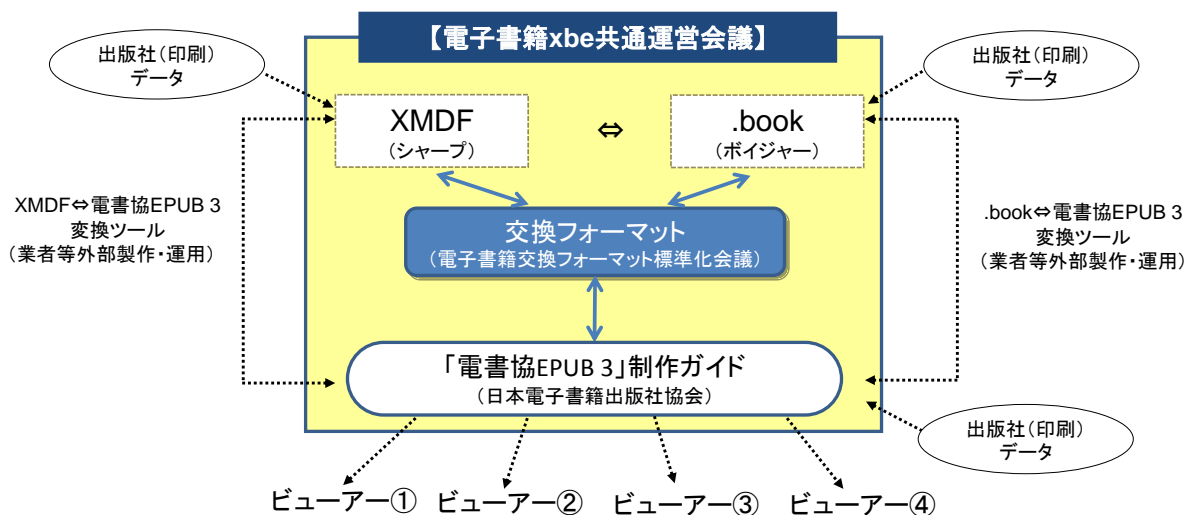
□「電書協 EPUB 3 制作ガイド ver.1.0」 <http://www.ebpaj.jp/guide/>

「電書協 EPUB3 制作ガイド ver.1.0」は、主として組み方向の混在や段組などのないシンプルな体裁の書籍を、リフロー型の電子書籍として記述するための指針です。最低限の画像配置のみを想定しており、画像の周囲をテキストが回り込むようなデザイン、凝った見出しのレイアウト、および固定型のレイアウト等については今回見送っています。

IDPF が提供している Radium の挙動等を参考にしつつ、ビューワーの対応が現段階では難しいと思われる機能の利用は見合わせ、本来 EPUB 3 で利用可能とされている機能からさらに大きく絞り込んだ一部の機能のみの利用を想定しました（詳細は当ガイドをご覧ください）。今後、業界の状況を踏まえて順次バージョンアップしていく予定です。

当ガイドは、新たな EPUB 3 を作成するためだけのものではありません。

電書協加盟社は、これまで、数万点の XMDF、.book を作ってきました。これらのコンテンツを活用させるべく、xbe 共通運営会議（次頁図参照）を立ち上げました。この会議では三省懇談会を経て、総務省 平成 22 年度「新 ICT 利活用サービス創出支援事業（電子出版環境の整備）」の一事業として、電書協が受託・仕様策定した電子書籍交換フォーマットを介した EPUB 3 への活用も視野に入れ、当ガイドを作成しました。



商用書籍の満足ゆく電子化には今後さらなる改善が必要となりますが、当ガイドが EPUB3 制作の際に生じる混乱を収束してゆくための一助となることを願っています。

以上

□ 「電書協 EPUB 3 制作ガイド ver.1.0」 <http://www.ebpaj.jp/guide/>

----- 本件に関するお問い合わせ -----
 下記宛にメールにてお願いいたします

E-mail : info@ebpaj.jp

日本電子書籍出版社協会について

電子書籍を制作・販売している出版社が一堂に会し、“読者の立場に立ち”“著作権者の権利保護を前提に”健全な業界の発展をめざし、2010年2月に設立した一般社団法人です。

| | |
|---------|--|
| 〔協会名〕 | 一般社団法人日本電子書籍出版社協会 |
| 〔所在地〕 | 東京都文京区音羽1-17-14 音羽YKビル8F |
| 〔協会HP〕 | http://www.ebpaj.jp/ |
| 〔設立〕 | 2010年2月1日 |
| 〔代表理事〕 | 講談社・野間省伸 |
| 〔参加出版社〕 | 朝日出版社、朝日新聞出版、アスキー・メディアワークス、NHK 出版、エンターブレイン、学研ホールディングス、角川書店、河出書房新社、幻冬舎、講談社、光文社、実業之日本社、集英社、主婦の友社、小学館、祥伝社、新潮社、すばる舎、世界文化社、ダイヤモンド社、大和書房、筑摩書房、中央公論新社、中経出版、東京書籍、東洋経済新報社、徳間書店、日本実業出版社、早川書房、阪急コミュニケーションズ、PHP研究所、富士見書房、扶桑社、双葉社、ぶんか社、文藝春秋、ポプラ社、マガジンハウス、丸善出版、メディアファクトリー、山と溪谷社(以上 41 社) |